

近江歴史回廊構想と近江歴史文化財の特徴

成安造形大学長 木村至宏

近江歴史回廊倶楽部がこのたび創立10周年を迎えられ、おめでとうございます。この倶楽部が近江歴史回廊大学で学んだことをその後も実践していくための受け皿的な役割を果されております。皆様が近江の歴史文化の振興に真剣に取り組み活動されているお姿を拝見し敬意を表するしだいです。

今日の記念祝賀会に何か講演をとの要請がありましたので、「近江歴史回廊構想と近江歴史文化財の特徴」と題してお話をさせていただきます。

まず「近江歴史回廊構想」ですが、平成4年に県の構想策定会議が当時京都大学教授で哲学者の上山春平先生を中心に4名(後5名)で発足致しました。私も末席に加わらせて頂き、近江の歴史文化風土について、少しでも多くの人たちに知ってもらうためにはどうしたら良いか、凡そ一年半ほど討議を重ねました。その結果平成6年に近江歴史回廊構想10コースの発表に至りました。



近江の歴史は他府県とは異なり一口では言い表せません。例えば奈良の場合、古代のヤマトから東大寺の建立の頃までは脚光を浴びていましたが、その後は特筆すべきものはありません。その点いつの時代をとり上げて、連続的に光を放っているのが近江の国なのです。

これらをコンパクトにまとめ、多くの人に実際に見てもらい、体で体感してもらえるよう10の探訪ルートを設定することになりました。

しかしこの10ルートの選定だけでは不十分で、よく県民の方々から「何故あの地域が無いのか」とか「この地域を入れては」とか各種の問い合わせがあります。

これは近江の歴史文化に対する様々な関心を多数の方々を持って頂いている証拠だと大変有り難く思いました。

平成10年には近江歴史回廊大学が開講されました。近江歴史回廊大学は、その地域の歴史を振り返ってそれを現代から未来に活かしていく、すなわち点から線への展開が重要な目的であります。このような大学は他の県には無く、大変羨ましがられるほど毎年継続して開講されています。開校当初は3年続けばよいと思っていましたが、県のご努力で本年既に11回目が開講し、当初の10コース以外にも「近江の歴史を築いた人々」など新しい講座が取り入れられました。そのうち「近江戦国の道」は毎年非常に人気があり、何時も競争率が高く、抽籤にもれた方々から苦情が出るほどだと聞いております。この人気の秘密は近江の国の歴史資源に深く係っています。

近江には中世の城がおよそ600近くあり、信長・秀吉・家康などにまつわる歴史遺産も数多くあります。皆さんが戦国時代の遺跡に行かれると颯爽とした信長になった気分になれる、こんな所が「近江戦国の道」の人気がある秘密かもしれませんね。

しかし近江が全国に誇るべき歴史的文化資源に恵まれた地域であることを、県民の方々に知っておられる方が意外と少ないのが実情です。たとえば未だに琵琶湖を船上から眺めた事が無いといわれるかたもたくさんおられます。船上では普段と違った風景を見ることができます。

東京のある会合で尋ねますと6割の方が近江に来られております。それも湖北の観音に来られた方が沢山おられました。滋賀県人として近江の歴史に触れ、学び、そして自分の中に生かしていくのが近江歴史回廊大学の前提であります。

ここで近江が他府県と異なるのは、次ぎの3項目であります。即ち近江の国は「湖の国」であり、「山

(ほとけ)の国」であり、そして「道の国」であるということです。しかしこれら一つ一つが単独ではなく、3つが重なり合って成り立つ重層性にあるのが特徴です。

まず「湖の国」ですが、単に湖があるだけと思う人もいますが、琵琶湖が近江の風土を培い歴史資源を構築してきたという背景があるのです。現実に琵琶湖の周辺では気候も違い、湖北で朝、雨靴を履いて出ても大津や京都では晴と言う事もよくあります。

また7~8千年前の古代から琵琶湖は人々を生活させてくれる宝庫でした。これは琵琶湖の周辺には200箇所もまだ湖底に埋没した遺跡があることからもうかがわれます。琵琶湖に流れ込む河川は、およそ121もの一級河川があります。河口には扇状地ができて、人が住むようになると湖上交通が発達します。港ができれば物産が集まる。人・物の往還が盛んになると様々な異なる文化が生れてきました。最初 琵琶湖に目をつけて利用したのは織田信長でした。

一方、湖があれば自ずと感性がはぐくまれる。“素晴らしい！綺麗だな！”と感動を表す気持ちが湧いてきます。人間若さを保つためにもいつも感動を持ち続けることが大切です。

次に「山の国」です。美しい山々に囲まれた近江には人々の信仰の対象となった山が多くあります。山とのかかわりの中で多くの祭礼や民俗行事が行われてきました。最澄が霊山の比叡山に入り、ここを仏教文化の中心としたことが、周辺の山々に投影してそれぞれの文化を育み、造寺・造仏ができ、近江の寺院に多くの文化財を持つようになりました。

また「道の国」という点では、近江の国は、西日本と東日本を結ぶ交通の要所で、古代七道のうち東海道・東山道・北陸道の3道が通っています。特に草津は中世以降東海道と東山道が交わり、人と物が集まる中心地でありました。一遍上人が布教の最初の地として選んだのもこの草津でした。また近江には御代参・八風・北国街道など数々の歴史的文化を持った街道があります。道が多いということは多くの戦乱の舞台になりました。武将にとって朝廷に謁見する事は最高の榮譽となっており、そのために京に入るには近江を通らなければなりませんでした。それ故、古より「近江を制するものは天下を制す」と言われたほど、近江は京の都にとって東の玄関口であり要衝の地であった訳です。

その他 西国三十三箇所観音巡りの巡礼道があります。東国の人々が伊勢参りをして、次に西国一番の那智寺へ詣で、その後西国三十三箇所の旅に入るのが通常でした。近江には札所が6ヶ寺あり、特に竹生島から長命寺は船旅でした。この船旅で宝暦年間に嵐にあって全員が水死し、能登川の浜に流れ着いたという悲しい話もありました。今もその供養碑が湖岸に立っています。

さらに近江商人の活躍が盛んになると、商人の道として物流が発達しました。これに伴い宿場が開け(東海道5宿、中山道8宿)、宿場が地域の中心となって文化サロン化し、情報の集まる場所となっていきました。

次に「近江の文化財」ですが、最近石山寺の御影堂他4棟が国指定の重要文化財に指定されたと新聞に出ました。これで国指定の重要文化財の建造物は184件となり、近々 彫刻で1件が加わる予定です。こんなに刻々と変わっていくのは滋賀県だけであろうと思います。それだけ近江の文化財は奥が深く豊富であるといえるのです。

文化財にはいろんな種類があります(付表参照)。これらのうち 建造物は建物の他に石造物が入ります。美術工芸品の中で典籍とはお経のことです。民俗文化財は祭・祭礼・民俗行事のようなもので有形、無形があります。記念物のうち名勝は主として庭ですが、変わった所では竹生島や醒ヶ井溪谷が指定されています。天然記念物では石山寺の珪灰石、日野の石楠花、御葉付銀杏など、さらにウツクシマツなど山中にあるのもあり、ウォーキングを兼ねて天然記念物巡りをするのもなかなか面白いと思います。

この様に滋賀県は国指定文化財の保有量が全国で4番目(在地性で3番目)に多く、近江の持つ歴史の豊かさに比例しています。また各分野にわたって該当することも類例が少ないのです。滋賀県にある国指定

重要文化財の彫刻 375 件の内、平安時代の制作が約 6 割を占めます。そのうち観音像が約 8 割となっております。近江には観音信仰が広く定着していました。今でも観音像は地域のお堂にまつられていて村人達が交替でお守をしておられます。大津の仰木では各集落にお堂があり観音像が多く祀られております。月に一回住民がお堂に集まりお参りをされています。これがお年寄りの交流の場となり、ひいては活力源となっています。年が寄ってから孤独になってはいけません。その点近江歴史回廊倶楽部は会員の交流の場となり、その重要な役目を果されていると思います。

私が最後に言いたいのは、県下には国指定や県市指定以外に御堂・石仏・道標・祠など膨大な未指定の地域文化財と言われるものがあります。これらは自然の中にあり、地域の人々の生活文化に融け込んでいます。中でも道標はこれまで何万人もの人達が見て道を往き来してきました。私はこうした地域文化財を大切に、町づくりをする事こそ大事であると常々思っているところです。

皆様も近江歴史回廊倶楽部に入られたことを一つの契機として、今後益々の発展されますよう、特に体の調子が悪いと思ったら早いうちに、検診を受け、だんだん年齢が高くなると外に出たり、人と出会ったりすることが億劫になりますので、お互いに気を付け合って健康に留意し、素晴らしい人生を送っていただくことをお祈りして私の講演を終わらせて頂きます。

〔付表〕滋賀県内・指定文化財等件数（抜粋）

種 別		国	県	市 町	合 計
有 形 文 化 財	建造物	180	75	231	486
	絵 画	99	36	174	309
	彫 刻	375	71	461	907
	工芸品	64	42	155	261
	書籍・転籍・古文書等	72	66	144	282
	考古資料	9	8	30	47
	歴史資料	5	6	29	40
	小 計	804	304	1,224	2,332
無形文化財		1	4	4	9
民族文化財		3	18	79	100
記 念 物	史 跡	42	35	81	158
	名 勝	17	15	16	48
	天然記念物	14	6	43	63
	名勝・史跡	4		4	8
	小 計	77	56	144	277
選 定		7	2	1	10
選 択		9	72		81
登 録		252			252
総 計		1,153	456	1,452	3,061

2008年7月23日現在（市町は4月1日）